

小さな希望を未来につないで

2~5面 YWCAの春だより
6面 ウクライナの子どもたちの絵画展
7面 ここ*LOCOだより

The Young Women's
Christian Association

YWCA

2

FEBRUARY
2026

No.790

Since 1905

〈第34総会期主題聖句〉
平和を実現する人々は幸いである
—マタイによる福音書5章9節—

〈ビジョン〉
女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にする社会

〈ミッション〉
若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます。
〈バリュー〉
キリスト教基盤 平和・環境 人権 セーフスペース



「世界で一番好きな河」

私は私の街が大好き。

特に川沿いの遊歩道は私のお気に入りの場所。

でも今は戦争でとても歩けないの。

いつか平和が戻って散歩できる日が来るといいんだけど……

ミラナ・ヴォロフォヴァ
(11歳)

小さな希望を 未来につないで



YWCAの春だより

column

東京
YWCA

▼
生命をえらぶ



針軸換した。

半世紀にわたり「核」否定の思想に立ってきたYWCA、として、一員として、このままいいのかという素朴な思いは消えず、再びグループをと

命か死、どちらへ続く道かを絶えず確認しながら歩んできた。2011年3月11日、東日本を激震が襲い、翌日には東京電力福島第一原

命か死、どちらへ続く道かを絶えず確認しながら歩んできた。
2011年3月11日、東日本を激震

が襲い、翌日には東京電力福島第一原

子力発電所の爆発が起きた。原発の恐ろしさを学んでいた私たちは、翌12年、グループを立ち上げた。先達の思いを受け継ぎ、「グループ名を「生命(いのち)をえらぶ」とし、中心となるのは、

過ちの記憶を次の世代に継承する

YWCAsは、自分たちの進む道が生

命か死、どちらへ続く道かを絶えず確

認しながら歩んできた。

「核」否定の思想」であると考えた。YWCAが1970年に打ち出したこの思想は、「核」を頂点とした現代文明に否を言うことであり、自分たちの生き方を問い合わせ直す表明でもあった。以来、グループは学び、考え、行動へと活動を広げていった。

2020年「核」に関する講演会を企画するも実施直前、新型コロナウィルス感染症拡大のためやむなく中止となつた。長引くコロナ禍、メンバーの高齢化により8年にわたる私たちのグループは解散となつた。

その後の岸田政権は、エネルギー危機と脱炭素化を背景に原発回帰の路線を打ち出した。2025年、政府はエネルギー基本計画で、事故後の政策の出発点である「可能な限り原発依存度を低減させる」を削除し「原子力発電を可能な限り最大限に活用する」と方針軸換した。

二度と繰り返してはならない重大な

過ちを犯した時、人は繰り返し記憶の継承という問題に立ち向かう。体験者の世代で記憶を途切れさせず、次の世代へ受け継がれよりよい社会を作ること

ができる。私たちはそんな思いで活動を続けていきたいと願つてゐる。

東京YWCA会員 実生律子

足した。

まもなく柏崎刈羽原発に続き泊原発再稼働容認のニュースが大きく報じられた。原発利用についての国民的議論は尽くされず、疑惑が拭えぬまま、なし崩しに原発依存が固定化していくことを私たちは危惧する。

*『旧約聖書』申命記30章19節に基づく。



2025年は「戦火の中から」と題し、原爆絵画30点のほか、ウクライナの子どもたちの絵画40点（6面参照）、そして憲法9条の条文をパッチワークしたキルトを展示

1974年、NHK広島放送局に一人の高齢男性が自らの被爆体験を描いた一枚の絵を持ち込みました。これをきっかけにNHKが被爆体験の絵を募ると、2225枚におよぶ絵が市民から寄せられました。その一枚一枚には、30年にわたり語られなかつた被爆者の深い思いが込められていました。

1976年、その原画を借りた絵画展が神戸YWCAを皮切りに、大阪・京都・名古屋・甲府YWCAでリレーのように展開されました。1981年

1974年、NHK広島放送局に一人の高齢男性が自らの被爆体験を描いた一枚の絵を持ち込みました。これをきっかけにNHKが被爆体験の絵を募ると、2225枚におよぶ絵が市民から寄せられました。その一枚一枚には、30年にわたり語られなかつた被爆者の深い思いが込められていました。

現在は甲府YWCAと静岡YWCAのみとなりましたが、今年もまた「ピースフェスティバル」で3回目の展示をする予定です。被爆した方々は、つらい体験を「私がそこにいた」「私がそれを見た」「私がそれを伝える」というメッセージとして発信しています。私たちはそれをしっかりと受け取って次世代に伝えていくことを決めました。それが私たちにできるピースメイキング！ であると、そして被爆者だった亡き会員の「核兵器の廃絶、目指してくださいね」という言葉を思い起こします。



山梨英和中学・高校YWCA部、山梨英和大学、そして甲府YWCAそれぞれのメンバーが一つのチームになって、会場づくり。試行錯誤しながら力を合わせて進めました

甲府YWCAは創立78年になりますが、最も長く続いている活動が、年に一度の原爆絵画展です。

1970年代、原爆の惨状が描かれた絵画をリレーのように手渡しでつなぐ展示会が、複数の地域YWCAで開かれています。

甲府YWCAは1981年に開催し、現在まで続けています。2014年から名称を「原爆絵画展」から「ピースフェスタ」に変更し、「核のない平和な世界を実現する」を掲げて、絵画展の発表する場にもなっています。会場づくり、片づけにも参加してくれるので大助かりです。2025年は、甲府YWCAで新しく立ち上がった「ユースの会」のメンバーがシニアには思いもよらないアイデアで盛り上げました。また、山梨YMCAの学童保育の子どもたちから感想文を寄せられ、とても励まされました。

長年、賛助員をはじめ多くの人々に物心両面で支えられ、43回続けることができて感謝です。すでにユースには2026年度の計画があるので、今から楽しみにしています。

甲府YWCA会長 山本貴美子

column

静岡
YWCA

▼
原爆絵画展



若い世代と共に核のない平和な世界を

column

甲府
YWCA

▼
ピースフェスタ





「Wの会」はセーフスペース。安心して思いを語り合い、互いの話を聴き合います。メンバー同士フレンドリーで、作業中もおしゃべりと笑い声が響きます

「女らしさは命にかかる」通称「Wの会」は、2018年から横浜YWCAで始まつた会員活動です。1ヶ月に1度、対面またはオンラインでの話し合いを活動のベースにしています。「女だから」「直面する日常生活のさまざまな理不尽や不満、疑問を話し、背景にある法制度や差別の構造について探つたり、どうしたらよいか考えたりしています。」(J)JしづらぐのテーマはSRHR（性と生殖に関する健康と権利）です。

みんなの経験を共有し日常を生きやすく

column
横浜
YWCA
▼
Wの会

モヤモヤを
聞かせて



る、物理的に離れるといったアイデアも出ました。

こうして積み上がってきた気づきを「E」や「ワークショップ」など何かの方法で多世代の女性たちと共有したいと考えています。みんなの経験も加えたいと願い、アンケートを実施しています。ぜひ声を聞かせてもらえたたら嬉しいです。

横浜YWCA会長 堀添里緒



手芸が好きなメンバーが集まるキルトボランティアの会。みんなで分担して作業を進めています。手も口もたくさん動かして、作業現場は和気あいあい

1980
を好きになるか、産む／産まない、結婚する／しない、といったその人その人の選択を「変わってるね」ではなく「そぐなんだ」と受け入れ合える社会にするためには、小さくともどんなことができるか？　という視点で多様な角度から話し合いを続けてきました。例えば、過去に言われてモヤつとしたこと、嫌だつたことについて話した際は、「こんな風に返すと良いかも」という提案のほか、スルーする、体を温めるなどのセルフケアをす

ち上げた
れながら、
地で参加し
めに手作
りました。
98年から2003
cm四方の
小さな
180枚を

1988年にアメリカの女性たちが立ち上げた「ABCキルト活動」は、生まねながらに困難を負った子どもたちのために手作りのキルトを贈る運動です。現地で参加した故・岡野房江さんを講師に98年から湘南YWCAの活動として始まりました。

小さなキルトをつなぎ合わせ、90cm四方の「おくるみ」に縫い上げます。2003年に終了するまで、6年間に180枚を制作しました。その後、教会

A group of people, mostly women, are gathered around a large wooden table in a room. They are working on a community quilting project, with many quilt pieces laid out on the table. The room has green walls decorated with various posters and drawings. The atmosphere appears to be one of collaboration and enjoyment.

心を込めて縫いつないでいくもの

column
湘南
YWCA
▼ キルトボランティア



展示会を催し、そこで小物を販売して制作資金をつくり、クリスマスに寄贈しています。2025年は、前年制作の50枚を含めて1000枚を贈りました。ひと針、ひと針、心を込めて縫いつないだ作品を頬ぞりして喜んでくれる子どもたちに引き寄せられ、幸せな平和な時が与えられることに感謝するばかりです。

湘南YWCA会員 加藤和子



ワークショップの様子。社会へ伝えたいことを画像にまとめて投稿しました

RUSV実施に関する問い合わせ
日本YWCAユースエンパワメント事業部
office-japan@ywca.or.jp

京都YWCA職員 古川由布子



店内の書棚には硬軟とりめいた多様なジャンルの本が並んでいます。丁寧に淹れたコーヒー、手作りのスイーツと一緒に心地よい時間を過ごせます

RUSVは各地域YWCAで実施可能です。ぜひ地域から若い女性のリーダーシップを推進しませんか。

札幌YWCA会長 栗城みはる

京都YWCAユース委員会は2019年からRUSV（Rise Up! School Visits）を実施しています。世界YWCAが発行する「若い女性の変革をもたらすリーダーシップのためのグローバル・ライズアップ・ガイド」をもとに、中高生に向けて「ワークショップをする活動です。事前に生徒にアンケートをとり、「性と生殖の権利」「気候変動」「音楽と平和」など、関心の高いテーマを取り上げてきました。

毎回中高生に伝えているのが「YWCAの考えるリーダーシップ」です。それは「あぐての人が持つている、自分しさを發揮して社会を変革する力」。その力はジェンダーなどの社会課題によって抑圧されていることが多いです。「ワークショップを通して中高生が自身のリーダーシップに気がつく」と、自信を持つて生きていってくれることを願っています。

参加した生徒から「身近なことから世界のことまで知ることができる」「話しゃやすい雰囲気で楽しい」、教員からは「生徒同士が新たな一面を知る機会になる」「生徒の価値観が広がるので卒業後もYWCAとつながってほしい」などの感想が寄せられています。

RUSVは各地域YWCAで実施可能でです。ぜひ地域から若い女性のリーダーシップを推進しませんか。

中高生に伝えたい自分の中のリーダーシップ

column

京都
YWCA
▼
RUSV



2004年から、北海道クリスチヤンセンター1階で「Y's Café」で営業されています。2025年7月、移転をお知らせしたところ、「困る」「どうして?」「青春の場所だった」「職場の近くで通つていた」「居場所だった」と、多くの声や手紙をいただきました。21年間、代々のボランティアの誠実な働きとお客さまとの出会いやつながりによって支えられてきました。その思い出とみなさまに惜しまれ、10月1日、札幌YWCA・豊(ゆい)

に移転し、Y's Caféは22年目の歩みを続けています。

北海道産の素材にこだわったパウンドケーキやワッキーなども引き続き提供するほか、新しいメニューも検討中。また、フードデリバリー業者の誘いを受けて前向きに加盟しました。「協力いただいている教会や商店などのつながりを大切にしつつ、新たな販売先の拡大を願っています。

「シニアのための「近所食堂」や「シニアのための歌の会」は参加者が増え、コンサートも喜ばれています。

話したくなつたとき、困つたとき、ちよつと一息つきたいとき……気軽に立ち寄れる場所として、地域とのつながりを大切に、「YWCAとして与えられている働き」を行つていきたいと願っています。

新たな試み 変らない絆、あの味

column

札幌
YWCA
▼
Y's Café





「きれいな歌を唄っている鳥」アリアナ・シェヴラコバ（6歳）



「戦争」ヴァルヴァラ・ヴィシニエフスカ（9歳）

教会や学校関係者が協力して日本で絵画の巡回展が実現しました。東京YWCAは、最後から2番目でした。絵の返却を相談したところ、子どもたちは、すでにポーランドにはいないこと、絵を返しても受け取る子どもたちは行方不明であることがわかりました。現地ではウクライナが忘れられてしまうことを非常に怖っていました。そこで東京YWCAが事務局代行を申し出て絵画を預り、停戦まで巡回を続けることを約束して、全国のYWCAに呼びかけました。

問い合わせ
東京YWCA紛争・災害対応委員会
電話 03-3293-5436

東京YWCA紛争・災害対応委員会担当職員
渡辺 陽子

私たちちは忘れていません



ウクライナから ポーランドへ

東京YWCAは、2024年10月から1か月間、ウクライナからポーランドに避難した子どもたちが描いた絵を借りて展覧会を開きました。絵を所有するサンスター日本語学校は、ポーランドのクラクフ市にあります。ロシア軍のウクライナ侵攻直後、隣国ポーランドには、多くのウクライナ人が押し寄せ、国境から250キロメートルのクラクフ市も市民8万人に対し20万人を受け入れました。サ

ンスター日本語学校の兵頭博校長は、学生と共に仮設の支援センターでNGOと活動を始めました。侵攻から1年余りたった23年5月、「ほとんど忘れ去られた子どもたちの厳しい状況を感じ取ってもらえた」と兵頭校長の提案で、日本で展覧会が始まりました。絵は、ウクライナから避難した美術指導者のカタリナさんが、子どもたちと描いたものです。クラクフ市から車で1時間ほどの所に、アウシュビッツ・ビルケナウ博物館があります。兵頭校長にアウシュビッツを案内されたことを機に、日本のバプテスト

日本の子どもや 大人と出会いを重ねて

2025年1月に大阪YWCAからスタートし、京都・函館・福岡・札幌・静岡・釧路・仙台・名古屋・沖縄YWCAを巡回しました。さらに藤沢・富士山YMCA、福岡友の会、北星学園女子中学高等学校YWCA部、

教会や地域の団体が参加し1年で18ヶ所を回りました。心に残ったのは、子どもたちが絵画を観たことです。京都YWCAあじさい保育園では、園児が床に広げられた絵を一つひとつ観てお気に入りを探し、また札幌YWCAを通じて絵画展を知った北星学園中学高校YWCA部が学校祭で急きよ展覧会を開いたといいます。福岡YWCAの展示を見た人から「子ども会のために貸してほしい」という問い合わせもありました。

また、それぞれの会場でのメッセー

ジカードには、平和を願う大人たちの返すことができること、それが東京YWCAの願いです。



ここ*LOCO だより

あなたの居場所になりますように

神奈川県からの委託を受けて、日本YWCAが運営するセーフスペース・カフェ「ここ*LOCO」。2025年11月に平塚YWCA会館に開室してから3か月。日々の営みやスタッフの想いをメッセージに込めてお届けします。



ここ*LOCOの活動が始まって3か月になろうとしています。週2~3日の開室で、1日にだいたい5名ほどが利用しています。シャワー・洗濯機

居場所といつても、建物や空間を指すわけではありません。しかし、パーソナリティの言葉や、リスナーの投稿に抛りどころを感じていたのでしきう。私にとってあの番組は、たしかに「居場所」でした。

先日、お気に入りのラジオ番組が終了するとの知らせがありました。私と同じように残念に思つたリスナーからの投稿がとても印象に残りました。

「この番組が、私にとっての居場所でした」

の利用のほか、お茶を飲みながら多世代でのおしゃべりに花を咲かせ、時にはネイルや足湯を楽しむ。そんな過ごし方が多く見られます。こうした営みを支えてくれる洗濯機や冷蔵庫はノジマ電気から寄贈されたもので、私たちの頼もしい相棒です。一番喜んでいるのは、温かい食事です。食材は

フードバンクからいただきものを生かしつつ、スタッフが手作りで滋養があるものを、と工夫して用意しています。食卓を囲んでいると安心感が生まれ、やがて具体的な悩みや相談に発展する場面もあります。先日ある利用者が「ここに来て、初めて自分の話を聞いてもらえた」とおっしゃっていました。普段誰かと会話はしていましたが、「話ができる」「聞いてもらえた」という感覚は得にくかったです。普段誰かと会話はしないでも、「話ができる」「聞いてもらえた」という感覚は得にくかったのかもしれません。彼女の言葉から、私たちは心の内を誰かに差し出し、あるいは迎え入れることが難しい日常を余儀なく



Column

充実したプログラムの理由

ここ*LOCOでは、ヨガ、タッピングタッチ、リンパケア、心のケア講座、看護師による健康相談……など、心身ケアのための多彩なプログラムを展開しています。それはもう「プログラムのない日」の方が少ない！ ほどの充実ぶりです。

YWCAにつながる信頼のおける講師たちは、ここ*LOCOの想いに共感し、利用者にあたたかく寄り添っています。参加も不参加も利用者の自由。「みてるだけ」も大切な意思表示と考えています。数多く実施する理由は、居場所があることを知つてもらうため、利用のハードルを下げるためでもあります。社会のなかで弱い立場に置かれ、支援のはざまにいる女性たちへよりリーチし、ここでの体験が自分を取り戻す回復の一歩となることを願っています。

日本YWCA職員 鶴山祐子

されているのではないか、と感じています。ここ*LOCOは、「ここがあなたの居場所になりますように」という願いを込めて名付けられました。改めて「居場所」とは何を指すのか。集う者が一緒に悩み、相談しながらみんなでセーフスペースをつくる営みが始まっています。



3月8日は国際女性デー

小さな希望を未来につなげよう

3月8日は国際女性デー。1977年に国連で決議された記念日ですが、その発端は、120年ほど前にさかのぼります。当時、工場で働く女性労働者は、劣悪な環境での長時間・低賃金労働を強いられていました。1908年3月8日、ニューヨークで女性労働者が立ち上がり、労働条件の改善と参政権を求めてデモに踏み切りました。その動きは欧米に広がり、女性の権利や差別撤廃を求める国際的な女性運動に発展したのです。

YWCAは先達のバトンを受けて、毎年さまざまなカタチで声をあげています。そしてこの日のアクションでメンバーが着用しているのが、総合アウトドアブランド「コロンビア」の国際女性デーを記念したTシャツです。「女性の多様な生き方を応援する日」を祝して展開されたコレクションで、私たちのアクションにパワーを与えてくれる心強い味方です。2026年もまた、素敵なコレクションが期待できそうです。今後のリリースに注目しながら、国際女性デーのプランを立ててみませんか。

120年前、女性労働者が一步を踏み出してから今日まで、無

数の女性たちが、自分とみんな、そして次世代の女性のために声をあげてきました。来る3月8日、時代を超えたシスターフッドに想いを馳せて、ともに希望をつなぎましょう。



国際女性デコレクションに関するリリースは
コロンビア公式インスタグラムで
発表予定!



ご協力ありがとうございます

東洋英和女子学院 同窓会	鉄路YWCA
大野綾子 三恵美子	甲府YWCA
日本キリスト改革派 東京恩寵教会	一般財団法人 平塚YWCA
執事会	匿名
(オリーブの木キャンベーン募金)	災害時支援募金
(国内外の災害被災者支援)	災害時支援募金
磯村美保子 市川真美恵	日本キリスト改革派 東京恩寵教会
内山伸子 宇都芳子	大野綾子 三恵美子
大澤本みつ枝 遠藤真理	日本基督教団市川三本松教会
梅林宏道 及川津紀子	田附和久 橋本健一 山本俊正
大澤惠美子 太田ゆかり	露木美奈子 庄司浩美 タキユリコ
大西しげ子 岡田淳子 梶井洋子	栗山義久 黒木順子 小泉陽子
柏木妙子 川上哲 越英里	長尾眞理子 中山美知子 西田悦子
佐藤輝美 鈴木聰子 関藤正光	野崎斐子 野々村耀 野村春江
栗山百合子 余みち代	野村裕子 村悠紀子 部屋さち
佐藤輝美 鈴木聰子 関藤正光	東根順子 平川幸子 笹木直子
佐藤輝美 鈴木聰子 関藤正光	福田公子 藤井初子 古谷都紀子
佐藤輝美 鈴木聰子 関藤正光	星万里子 前田晶子 三恵美子
佐藤輝美 鈴木聰子 関藤正光	三股まさ子 宮澤玲子 八木高子
佐藤輝美 鈴木聰子 関藤正光	依田洋子 和田博子 渡辺修一
佐藤輝美 鈴木聰子 関藤正光	渡辺美智子 吉岡真紀子
佐藤輝美 鈴木聰子 関藤正光	甲府YWCA
匿名	(ウクライナ支援)
手野早広 嘉屋陽子 庄司浩美	嘉屋陽子 庄司浩美 タキユリコ
在日大韓基督教会 京都教會	露木美奈子 庄司浩美 タキユリコ
一般財団法人 仙台YWCA	在日大韓基督教会 京都教會
公益財団法人 京都Y W C A	沖縄キリスト教福山センター・沖縄YWCA
公益財団法人 福山YWCA	(ペレチナYWCA支援)
日本基督教団市川三本松教会	日本基督教団市川三本松教会
匿名	日本Y W C A ユースエンパワメント 基金
大野綾子 手島千景 藤原玲子	日本Y W C A ユースエンパワメント 基金
日本基督教団市川三本松教会	日本基督教団市川三本松教会
敬称略	(2025年10月16日～12月15日)